

第1号議案

防災・安全交付金事業
 いっきゅうかせんおおかわ おおたし
 一級河川大川 太田市

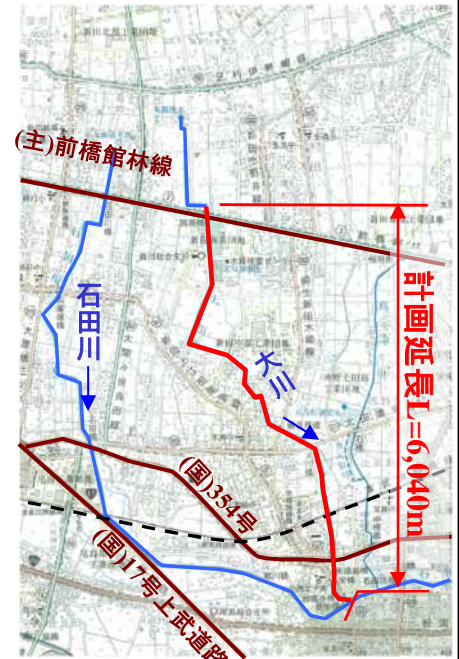
着工年度
 評価理由

平成4年度
 再評価後5年経過

1. 事業の目的

大川は、旧新田町の^{じゅうどのゆうすい}重殿湧水を水源に太田市を流下して石田川に合流する流域面積29km²の一級河川である。
 流域内では、商業団地・工業団地の開発や、土地区画整理事業による宅地化の進展など、都市化が進み豪雨等による流出量は大きく増加しているが、河川断面が狭小であるため、道路や家屋の浸水被害が度々発生している状況である。
 このため、河道拡幅や調節池整備など河川改修工事を行うことにより、浸水被害を軽減させ、安全で安心できる地域づくりを行うことを目的としている。

位置図



H10.8氾濫状況(太田市泉町)



H27.7氾濫状況(太田市新田木崎町)

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	おおたしにいたいのいちやう おおたししもたじまちやう 太田市新田市野井町～太田市下田島町	
区分	今回	前回(H23)再評価時
全体事業費	5,439百万円	5,439百万円
全体事業費増減の理由	-	-
事業期間	H4～H34	H4～H29
事業内容	計画延長：6,040m 計画規模：1/10 計画流下能力：45m ³ /s (現況流下能力：10m ³ /s)	計画延長：6,040m 計画規模：1/10 計画流下能力：45m ³ /s (現況流下能力：10m ³ /s)

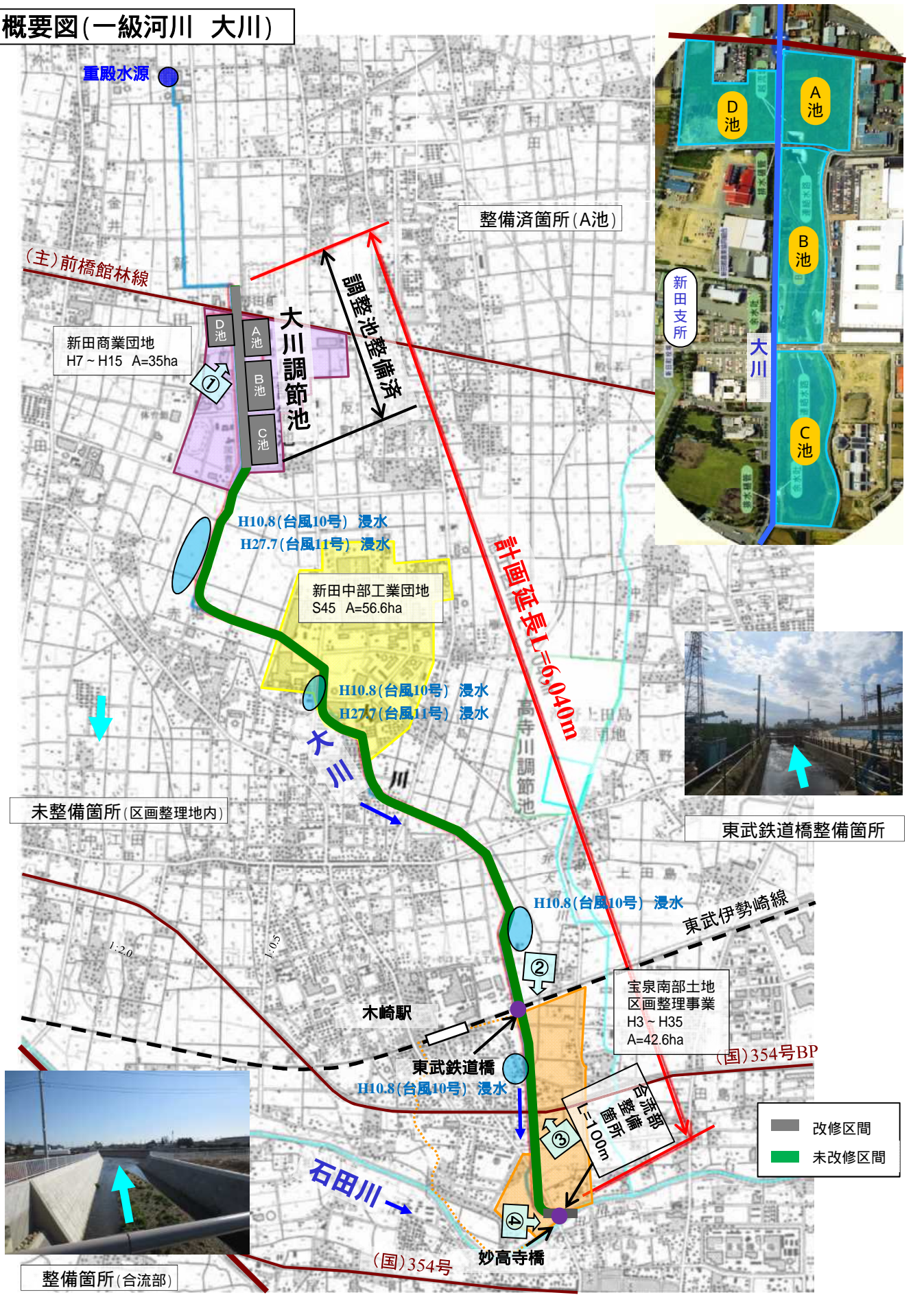
事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
H8	用地買収着工	5,439百万円 167,000m ² 6,040m	3,588百万円 (66.0%) 65,610m ² (39.3%) 1,100m (18.2%)	2,880百万円 (53.0%) 64,470m ² (38.6%) 1,000m (16.6%)
H11	工事着工(調節池)			
H25	河道工事着工			
H26	東武鉄道橋着手			

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

概要図(一級河川 大川)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

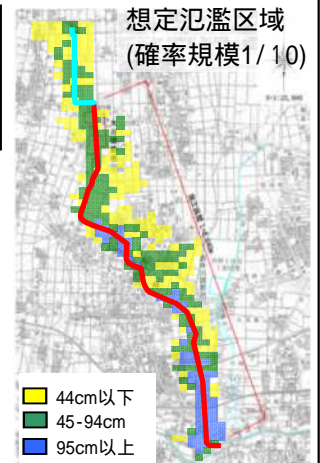
大川流域では、商業・工業団地の開発や宅地化の進展など、豪雨等に伴う流出量は増加しており、洪水被害を軽減する本事業の必要性は一層高くなっている。



氾濫状況(H10.8: 太田市泉町)



氾濫状況(H27.7: 太田市新田赤堀町)



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

上流域の農地と中・下流域での開発を考慮して、上流調節池整備と河道拡幅を組合わせた現計画が、治水効果やコスト面から最も妥当な工法である。

整備順序は、早期に治水効果が期待できる最上流部の調節池を先行整備した後、下流から順次、河道拡幅する計画で進めているが、協調事業である土地区画整理事業が遅延しているため、区画整理事業の影響を受けない東武鉄道橋の架け替えや中流の狭窄部を下流見合いで暫定整備することで、事業進捗および治水効果の早期発現を図っている。



通常時



降雨時



大川調節池の整備効果(H23.7)



東武鉄道橋の施工状況(H27.10)

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		備考
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		
基準年		平成22年		平成27年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	9,438,813	96.3%	13,745,967	97.8%	現在価値化による増加
	維持管理費	366,856	3.7%	310,793	2.2%	年間維持管理費の減額によるもの
	残存価値	-	-	-	-	
費用合計 (C)		9,805,669		14,056,760		
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益	68,050,468	35.6%	76,226,565	35.5%	資産評価額の増加や現在価値化による増加
	農作物被害軽減便益	1,109,008	0.6%	1,315,504	0.6%	
	公共土木施設等被害軽減便益	115,277,517	60.3%	129,127,832	60.2%	
	営業停止被害軽減便益	3,192,568	1.7%	4,290,230	2.0%	
	応急対策費用軽減便益	2,772,573	1.5%	2,885,557	1.3%	
	残存価値	803,997	0.3%	792,129	0.4%	
便益合計 (B)		191,206,131		214,637,817		
費用対効果分析 (B/C)		19.50		15.27		

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画 不測の事態により長期化 】

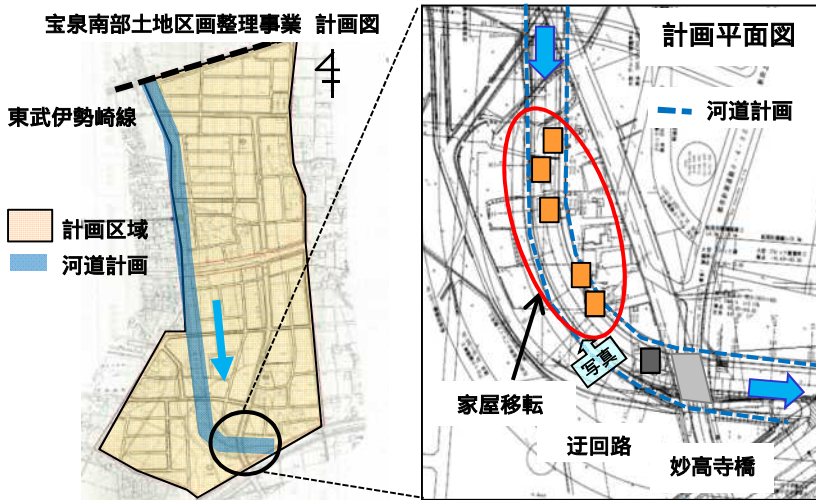
【元々が長期計画】

河川事業では、河道狭窄部のみ改修すると、その下流に新たな氾濫を起こすおそれが生じるため、原則下流から改修していく必要がある。本河川においては、6,040mにわたる大規模な河道改修が必要であり、計画当初から長期計画となっている。

【不測の事態により長期化】

大川の最下流部に位置し、協調事業として進めている太田市施工の「^{ほうせんなんぶ}宝泉南部土地区画整理事業」については、H30年度の完成予定であったが、事業進捗の遅れからH27年度に事業期間を5年間延伸し、H35年度完成となった。みょうこうじばし

土地区画整理事業の進捗の遅れから、妙高寺橋より上流の河道予定地においても用地の取得や家屋移転が進まず、約5年の不測の期間を要している。



【宝泉南部土地区画整理事業の概要】

- H 3 事業着手
- H23 事業区域の縮小(46.2ha)
- H27 事業期間を延伸(H30→H35)
- H35 事業完了(予定)



河道予定地の状況(H28.3)

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・本事業は河川改修を行うことにより、大川沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・区画整理事業の遅れに伴い本事業も遅れているが、区画整理事業の影響を受けない東武鉄道橋の架け替えの実施など、今後も上中流の狭窄部において、下流流下能力見合いでの暫定改修等を推進することで、事業進捗及び治水効果の早期発現を図っていく。
- ・大川の河川改修事業は、沿川の開発や商業及び工業施設の集積により、出水時の浸水被害の影響を考慮すると、事業の必要性・重要性は高いことから、平成34年度の完成(5年延伸)とし、事業を推進したい。